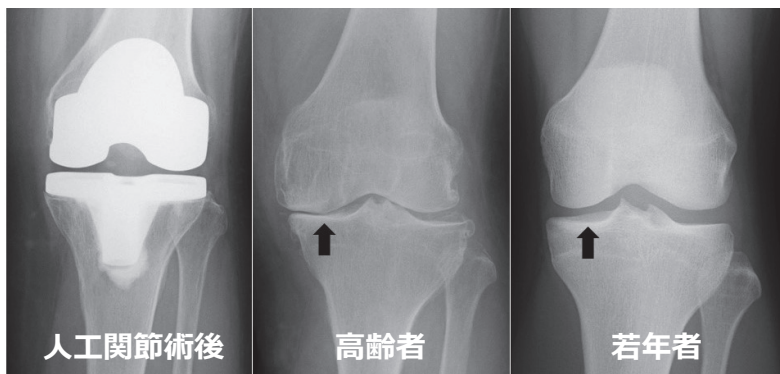


『ひとの体にタイヤ交換』



当地に赴任して丸5年が経過しました。この5年の中で昨年はちよつと特別なことが起きた一年でした。整形外科の代表的な手術である膝の人工関節手術を受けに行かれた方が10名近くと最も多い一年だったのです。

町民の皆さん、体を酷使して永年働いてこられた方が多く、膝の軟骨がすり減ってしまいい、若い時には大腿骨と下腿の骨の間には軟骨の厚みに相当する隙間（写真右矢印）が、いい年になると全くなくなってしま（写真中央）ことがあります。クルマに例えて言えば、タイヤが摩耗したところの話ではなく、タイヤがなくなつてホイールだけで走っているようなものです。「もつと効く薬はないのですか？」とよくご質問を受けます。火を見るよりも明らかです。注射もしかり、飲んで効くなどと言うサプリもしかり。骨と骨がギコギコ擦れ合う状況にもなれば、手術で治すしかありません。

「人間の体はクルマのように部品交換って訳にいきません！」が医者の決まり文句ですが、膝についてはタイヤ交換に相当する治療が、広く普及しており成績も安定しています。傷んだ軟骨や関節付近の骨を一部取り除いて人工関節を設置するのです（写真左）。

治療後のリハビリが必要なため入院期間は一般に4週間程度、両膝同時手術も広く行われています。80歳代になられると（当院での最高齢は80歳代後半）、リハビリや炎症が引くまでの期間が長引く傾向があります。費用は高額医療費の対象となるので収入に応じた上限額までとなります。

患者さんの満足度は整形外科領域の手術の中でもとくに高いもので、「こんなに痛みが楽になるのなら早く受けておくんだつた。膝が真っ直ぐになり背も伸びて視界がよくなった!」等々、評判を聞いて私も受けに行こうと思われた方が連鎖したのが2020年でした。

治療後の生活で留意すべき点は、なるべく椅子の生活を心がけ、正座は（膝を傷めてしまった時点でできなくなっているはずですが）原則的にできないとお考え下さい。中に摩耗するパーツがあるため、ひと頃は耐用年数10、15年と言いました。近年ではよほどの肥満や乱暴な使い方がなければ20年以上問題ない時代となっています。基礎疾患をお持ちの方では手術を受けられない場合がありますので、詳しくは当院までご相談下さい。

（文責 医師 橋本伸之）

